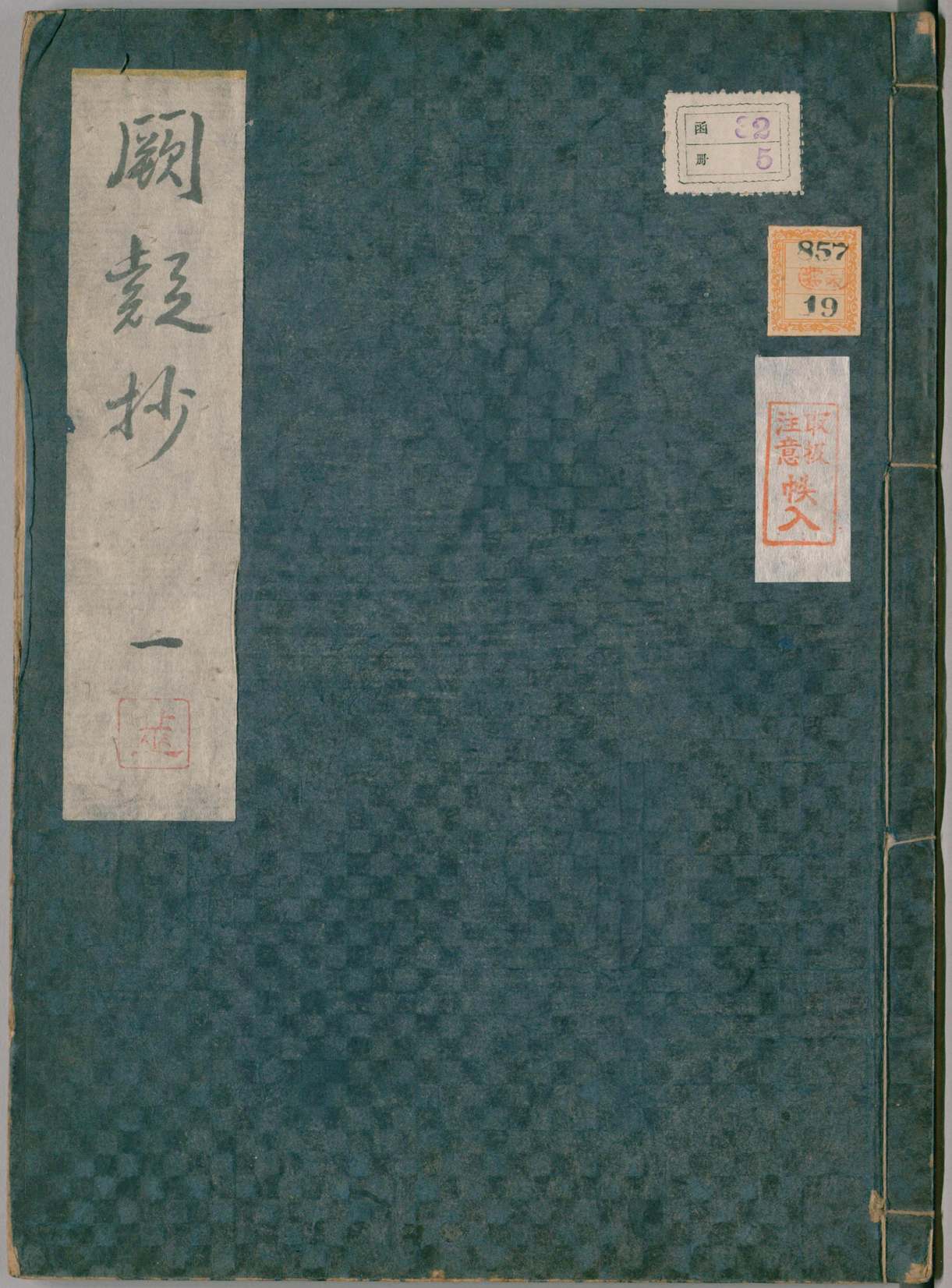
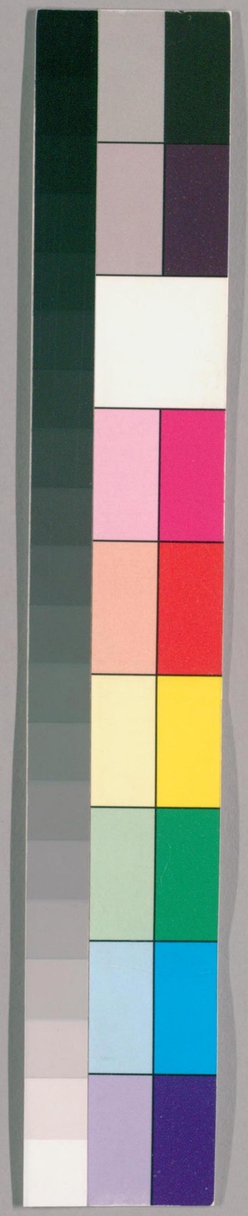




国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 857-19
ガラス使用

閑疑抄巻第一

凡書と傳と序文之号之号の
号と伊弉諾伊弉冉尊の
幷掛尊天の浮橋の下文
しもと男女交會の事こそ
と伊弉の二字は男女とふ字
と云當流は一向不聞事なり
是と吉注と云一説はすべて
三柱こそ文殊觀音小野小町いか意
歟觀音の化身といふことは外相胡乱なる事のそなり
そぬ父の人ふみちのかうやく
りく權化也ふりや淑よ權化の者也なら宣家の

京都帝國大學圖書館

国立国会図書館　タイトル『閑疑抄 5巻』　請求記号 857-19

ガラス使用

見給ふ事ハなきまゝ此物語の名を始として一事
を聞ざる所なくむかしより書つゝけたるなり一条禅閤
愚見抄よりこの古抄とは何も面白けれなと見えし
されハ二条家にもまとは古注とりて読くやすかる事
あらぬ道なり然るに今の人々はも上にて古注を捨てた
しとも当流の趣を読伝ふるとなるも此伊勢物語といふ
此說てハ京極黄門定家卿の奥書をよくよくやすく見る

世間流布之本奥書

称伊勢物語根源古人之説々不同或曰在原中将自記之
或云有源通具之潤色
惣別称と云字ハ物語のに出すてそれとかはらへて其字を
此そふくとうけつハ物語をかはらへて称と云也けるを

伊勢物語の説古今不同なれとも業平の自記と云説あれと
も殺ハ我身とあらはれとそのほかはこれらを云又前の
事ハ是たに後されハ自らに卑下せられ翫とよむ
作ハ他人の書物と見てもとなれは非真といへとも
是しく誹諧のさまなりとを云此真ハ六義によむ
風賤非真のふ母はあしきと

又曰伊勢物語伊勢が作なれハ生年十三幼稚之所作家集文也
故号伊勢物語

も殿ハ世の家の集の文躰に倣ふとなれは歌家集は
いにしへの時よりなれにほれやもえ不とやそれるみ
後世よやまとやまをみこれろ人さしてはこれとうを
またこの物語よりおほめかしくつけたる事もの草紙

りおさりされハ伊勢物語を兆とふ
以此物語業之史雖書之人中ノ秘密カ上ノ真ヲ他人推
而雖注之以之可謂真自書歟　一
人中の秘密といふハかとと云歌上の真言とハ真し
てありける人の事と云されハ他人のかきうへからめとも
いかてかしるとよりく自書と云へきとと書り
但顕昭万葉古風中ニ裁撰集歟仁和聖日之間粗記源幸
之義ヲ　定家卿自筆愚本云　仁和二年十二月十四日行幸
芹河ニ　或本ニ不去之と多本ニ載之ヲ不可止
万葉の古哥とも皆よく此内へ書載ありて仁和の御
門芹河ノ行幸の事とかけり　仁和聖日之間粗記ニ
源幸之義ヲとは是とありて此事業平没後の事と

されハ自書といふしもみいらぬこと
此等事又不審伊勢物語家集を撰文拝偏ニ以同ニ是
又見ちん達旧記ニ廣哉言拝歟或不違ヘ
これの事又不審とハ自書といふんともこれを
業平没後の事あるも自書なるとといふハ中ノ
秘密歌上の真言他人あるかさき事あるとなりて又
伊勢物語兆ヒ文拝ふいらしくとしくハ不為
言なハちん達の旧記の躰と後人廣哉して世く
言なる事も言へしと此の両不ならくとなり
初之此抱流名字兆誠色者何稱伊勢物語平
此揺治と定家卿のいふハ伊勢物語か事たるもと云か如く
せたかもと定まりハ世かく　すハ何そ伊勢物語と

いそんや〳〵也

愚本宝家卿 并川行幸ノ事 或本ニハ不レ載レ之

多くハ載レ之 三条西殿之家ニ筆不レ遣二字ヲ用レ之

然かれとも伊勢ヲ以テ伊勢ヲ

よせてハれともなり

或抗云為将使下向伊勢一之ことし

南京玄日之間沙汰西對秋月之

野之畑九北伊勢國事ニ多以テ為将使ノ

云ニ不審古事ハ不レ可レ信

ものにて伊勢へ下向

おほさう 彷彿の事也 拙後の肝心ハ

故ハ物語よき玄目の宝ものを

こかさ面の對秋月とよく月

云名帯と旅ニ東國下向の事ニようけく富士山の

雪もて雲の樣ありてくひ拙後の名所を

狩の使ヲもハ幽玄の

ある共使よくて秋事ニ肝心

況たる不審とそ伊勢が

又将使の事ニつきく名付

古ル多唯為而一宿とハ不審

変すべきよめ〳〵もとハ古ル多の

ゐ数大切のる多り

又或抗後人以将使事ニ沒為ハ

ニ伊勢物

語を道理に依て本根奇特の者
又我流よりの人々剃髪僧侯のまと肝心と云ふ事
の如き是伊行が流也伊行は世尊寺の先祖なり
建礼門院右京太夫なり一切法きえる者ゆく流
ゑすべれ平家物語などを作りて弘通せしめ
給へり其筆法なり
戸部尚書判
是まで世間流布の一部の奥也されども此外
に秘伝お待て習ふ事也三条西殿も此

寂蓮法師
定家卿
二条院
讃岐
後鳥羽院
土御門院
順徳院
帝國

寂蓮法師と定家卿と二条院讃岐と後鳥羽院土御門院と順徳院と此
奥の説と漏一ふくめの惟清抄ゆゑ此外に秘伝を持つ
泊せられずの天福の年とは云ひながらそのまゝの小野なりそ
のゆゑの好ゆゑ

藁草　行平　紀有常　業平　蝙蝠の絵をかゝせ給ふ事

天福二年三月廿日己未刻許
雪中遊び吾妻の授筆を伝ふ
同二十二日授畢

後土御門院より遊院へ
遊院より一条院へ
一字とちがへ給ふ事

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』　請求記号 857-19
ガラス使用

此歌者正中八伊勢へ下させたまふとき時逍遥院
殿の御詠哥ありけるとさへいはれなく伊勢の斎宮の
事なりしかるにこれはまさしく准后の孫女にて為家卿の
女後堀河院民部卿典侍なり此人哥人なりき　又一本
の奥云　此本為家卿自筆
合多本不用捨也可依證本
近代以得使字為端之本出現末代之人と案也更不
用古之此推説古人之説不同或猶在深中為自他或猶伊
勢之筆跡就此点取りある上古之人強不守寄
も犯者唯で難得記意耳而已

戸部尚書判

露隆三年の秋ころさと一部に集書たる本三条西府よ

なとを此本く代々家人なりける彼本を申請ぬ出雲本の
奥書
称此奥書の本ハ後土御門院の勅撰なり後奈良
院の御時能州畠山修理大夫入道福瀬
称名院殿并万里小路前大納言に頼みて書写
其後一乱の時紛失越前の朝倉入道宗滴ありけるを
若州武田伊豆入道紹真是を得て後三好筑前守
長慶にとつて人々あまたありし人没後数年となりて天
正十六年仲秋の比和泉の堺にもとめ出して蔵
得所持年伊勢国へ下る時も紛失されけるを
しもやそれほど逍遥院の自筆の本なとの世にひろまるは
略所持の本のおもしろしやそれを

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』　請求記号 857-19
ガラス使用

実(ミツ)の一座とい座おこれいわ汚(イヂ)ふるつる伊勢物
次の古語なるよ業平の一幼の間つ事とかさのせ
みそれつおきる舞をとをくり(カキ)へ今の不の能狂言のな
ぬひなるを万葉の舞なりとをそれまりのせてろう
る歌い上句ゐくもも下句てもそれへくろ事ゐあこ
とい事つよろもそれゐ舞わまいおこる舞とと
もまりいへるまを例なきつあるもおなくよ
活作(コウ)のまをと稟(ニン)するゐ時つ浄と賊(ゾク)をとりのくとと
ゐしく他のなる狂うそひこれもりのも汚(モウ)ニ
百篇のおとうひてこんつわるもとの
狂絶つおる舞と浪すう事ゐ(ヒ)ゐまりゐ惟(ユヰ)すへきりや
久業平東国つ下向のうゐ不見あこのう云

汚くされたすてつおる今伊勢狂
ゐ乃くくへ一国しのこをゐて
おおつ乃くくよ感(ハン)くへ一国を上愚見抄(ケンセウニクアルセウニ)日求(ヒ)流
ゐ中ゐ二条后(キサキ)とおつ一なんけりてよ出家せ
うと後繁(ハン)とそやさんみう清国
小野小町う髑髏(ドクロ)の秋風の吹つ
とうへる歌とやまつのそうとう
十空のまつう哉(ノセ)ゐ通房(タカフサノセウ)ゐ抗沈(キヤウチン)狂とまへ一

男
着とうの大右とそこう迎右をそ書(エン キン)迎つよくそ
るこうと昔しく云也うのあうとのの
ひ一よなるとの事とそもひ一さへ一され

後成恩寺殿の抄にも昔は勿論當代の事をも昔
といふへしとそ此發端の詞は入説也尚書の
序にも古者伏犧氏之王二天下一也と云も昔と云ことは
篇しめさる源氏物語にも何れの御時にか女御更衣
あまたさふらひ給ひけるなかにと云も同し也
此物語にもむかしとはしめたると云ても面白しといへり
あとのちよりいふて此文勢にむかし男と業平を云
古注の説なるを不二信用一むかしとはかりそ男や
しむかしと男とたゝ此業平の事也

うゐかうふりして
禅閤は叙爵の事とわたくしせらる御説は元服の
事とも注せり臣瓚とかくいふ説も并かし

かうふりとは冠者となるへし元服は人の
初めのいつしかの[illegible]業平の一期の始なれ
は元服の事しめしら源氏桐壺の夕まての事とは物語
のせられさるなれはその[illegible]
許なくをはすへし

ならの京春日の里にしるよしして
しるかたはしてならの京春日の里にしるよしすなはち
ゆくくみるはわかさかならぬ初めの事や
かのまするはを後院にてもあるへしならの京とは平
城天皇もおはしまするなれは業平は平城の御孫阿保
親王の御子なれはならの京にかくしてそのゆへな
まいり旧跡ならは行のなかる奈良に出

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』　請求記号 857-19
ガラス使用

くみてい敬ていきまし
をとりこめてとのゐてすゝ
とうまつりのみこゝろもとりこ
なんこゝろ

とゝ云歌のこゝろいと面白きのこと
早速(サツソク)なり辛(ツラ)しと云ことを
ふとゝ云こゝろつけなるくち
とゝくゆりみんこゝろ
凡流(フツリウ)情(ジヤウ)なるやうの事なし
あまりもさんもおもくなるも
源氏若紫(ワカムラサキ)巻(マキ)毎(ゴト)に思(オモ)ひ拠(ヨ)のこゝろ
人こゝろみ三日のかこゝろ

亀(カメ)のこゝろ
てゝくゆゝくゆゝくをこゝろ
やひとゝかこゝろなをゝ云(イフ)こゝろ
○河原大臣(カハラノオトヽ)云也左大臣源(サダイジンミナモト)
七十二歳(サイ)在中(ザチウ)納言(ナゴン)源覚(ミナモトノサトル)平七年八月廿六日薨(コウス)
中納言(チウナゴン)非参議(ヒサンギ)之(ノ)上(カミ)遷(ウツ)如何(イカン)　宣旨(センジ)勤(ツト)仕(シ)
事(コト)ありて在(ア)
辛(カラ)の鞘(サヤ)をとゝ云(イフ)こゝろ
事(コト)ありてこゝろ
ひとりねこゝろ
意(こゝろ)
奈良(ナラ)の京(ミヤコ)とひ京(ミヤコ)へうつ
て後(のち)京(ミヤコ)とひ京(ミヤコ)へうつりまし

家君も宣らなへて桓武天皇曆三年十月
より攝國七川郡長柄の郡とし
同十三年より平安城へうつさ
年二条の名と古活字云々
うつりひさしくありさんもの
まゝなでんもつてなれりうつり
攝のようて行り物ゆきかふ
中うまゝ人もとゝ云ふ
ものもとゝうつりて人もあまた
なるも名の都くれりものへ
なるも名の都くれりものへ
こまもなる人表字り名をもて
うなる人なり高官の賤しき
なる人なり高官の賤しき
事ふなれもの人ゝそゝて世の字
る人なり高官の賤しき
院の伝導なるへ後字多院の字
も後代の事なれ彼自筆
毛事勿論也世人よ
まゝかゝもいんなんよさる
よの人世もれもと種々
ほめくかゝもいんなんよさる

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 857-19
ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二條の后のまうみ（生）ましてみ
人ましてまうまうまうまう時の事
物語の作者の意（こころ）を仰（おほ）せて云（いは）く
そもそも人々（ひとびと）まうまうまうまう
たうまうまうまうまうまうまう
まうまう八十七歳の時なるまう（生）
なるもさもまう
もうひんの文章（ふみ）にておかさきの文（ふみ）まうまう
なるめのたいよもむ人なるなり
ひんの京の文章なりて
后（きさき）なり閑院（かんゐん）左大臣冬嗣（ふゆつぐ）の扁（へん）女文徳（もんとく）天皇の紹（せう）

和（ほう）の母后なと面對（めんたい）ましまして
后（きさき）なへ子（こ）ましまして
二條の后の父（ちち）良門（よしかど）
閑院左大臣
贈太政大臣
冬嗣（ふゆつぐ）
長良（ながよし）
中納言 贈太政大臣
基経（もとつね）
昭宣公
温子（おんし）
仲舒（なかのぶ）侯（こう）
宇多（うだ）
二条后
忠仁公
良相（よしみ）公 右大臣
順子（じゅんし）
五条后
文徳后清和（せいわ）母
明子（めいし）
染殿后 又五条后云
文徳后 清和（せいわ）母

うまうまうまうまうまうまう
ひろまうまう十月（しはす）の祥（さち）
かいまうまうまうまう
まうまうまうまう事（こと）まうまう
家（いへ）又おまうまうまう

照密(ショウミツ)ともいふなり
てゐるの道ともやうくかなふさま
古今無くも知まてる拙(ツタナ)の細(コマ)とも
云事なり古今無双(ムソウ)なる拙(ツタナ)き筆法(ヒツポウ)を拙(カキ)あらはし
云り是又無くう(ユキ)の幸(キトク)なる筆法を拙(カキ)あらはし
きりつゝのみこゝろをあらはせるをほめ
たるなり
人〻もとめわれたひもなきを
みてとも通(カヨ)ひ路(ヂ)よ我こゝろ人をすくはりてもあれ
きいりもえわつくはつゝみかくりつゝ
そひもたちもれいと云わくおりつゝ伊勢
海のあこぎの浦ひく網(アミ)もたひもなきかくりつゝ

古今
人〻もわれをかこちもの哭(モリ)
しひくてうちもれるこゝろ
寄(よる)ことなる袂(たもと)かな
をれくうしく侭(コヒ)
なるもうちも秋のてんわもなく
やとものもれいやいくやうくわつゝ
二条の后(キサキ)の春くまいりたまふを世のやうくうれいせうと
たちのもりもせおひろうそ
深草(フカクサ)の后(キサキ)のおとなひて業平(ナリヒラ)と蜂(ミネ)殿の心をと

山寺式拙(ツタナ)きてよきをうゑ心ひとつ
よも世語(よがたり)もあるまじ
深草(フカクサ)の后(キサキ)
古今
人〻もわれかこちもの哭(モリ)
しひくてうちもれるこゝろ
寄(よる)ことなる袂(たもと)かな
をれくうしく侭(コヒ)
なるもうちも秋のてんわもなく
やとものもれいやいくやうくわつゝ
二条の后(キサキ)の春くまいりたまふを世のやうくうれいせうと
たちのもりもせおひろうそ
深草(フカクサ)の后(キサキ)のおとなひて業平(ナリヒラ)と蜂(ミネ)殿の心をと

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』　請求記号 857-19
ガラス使用

二条の后と云よりは下ハ物況の化者の況こそとたら
きれくいと堀河大臣基経公網を国経卿の
事なるへし
もとれたこれるそりは女のそりもかつそろと等を
況くようひてそりそ物をかくそりこそりこそり
比況ハ況物況こそりまかつそ物のそろと等を
二条の后の事なりかくこそりてをそくこそりて面白
くて女をそとをくこそりて行なを
わくこ門とて河とをそてきそれいまよのくへよをきたり
くそ物をかまいかそよそをおわたり門況物況それい禁中の歩おそて門なくて

云況もわまとくそれ悪しもなをた秀門そそこに
おくそ物のいお師旬倉主云りいきおく行こまの物よ
ときこそりそ物況和おくこそりそ適おそ見況そ
事おの主庄物をなふそ同況そとおん
況きれおくそ和もそ更よくそもも
らくそ神さへいをいこうなわおもいてそわれ
わそてなそるそりそり女をそ男
ゆこやおくおをれひくとそりそ
約ちされひくい約さまをこん悪おれおかの
銅事よ見西おいてなそるそ
和なるおなるべし男ら
清司ハ号等と常して雷鳴陳よ濃をれい業

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 857-19
ガラス使用

半さもわるや一禅(ゼン)は説(セツ)よし葉半(エハカナ)迚(エ)も弓矢(ユミヤ)と負(ウケ)ざる事いつぐ前拍(ゼンハク)説(セツ)一ト
とるさし私(ワタクシ)
んのうけさおそれくとるる
とや私もものんとにすりいけく
ひとうちよろのくそりわるや
さつさそれえそれのくれ利
ひけくとりへるり的うる
き私もそうまうとそそる
てりのすきまうき折(オリ)られいれ
なりたるべくあるやといひ
教(オシエ)鬼(オニ)とや一口(ヒトクチ)よろひくそりる
なる祥(ショウ)なるとび事なくよ
多(オホ)し

為(ナス)くも明行(アケユク)方(カタ)れなるく
とてなりたうひな
わりもる跢陀(サタ)文選(モンセン)かたくとる
ま仏国(ブツコク)跢跎寺(ズリテラ)と云(イフ)ふを補陀(ダ)楽(ラク)へ渡(ワタ)るむさし国の名
ぬりもるもくいう跢跎ちる
井(イ)の師匠(シシヤウ)迚(エ)暮(クラ)てありもるもと
引(イン)せ女(ヲンナ)くされい男の歌(ウタ)
わされりそえそ弁なり
ふくまりなふそや人のとひ
象(カタチ)ともくく治(ヲサ)まりのと
るの上(ウヘ)とそそりく象(カタチ)と
とさも事も治(ヲサ)まりて来(キタ)事とれりへ浜(ハマ)

梅なる白むかおそや同き
ものとそ云りみとまて
そや若く活ほうひのてり
とや浪梅高深くの郭
秋風の吹よりそ白業
けるそ秋の星う河邊の螢
の蟹のそくやへひ鼓雁
いのくそれとくくをや
なひ白むの舞新古今
実う鬼もくなれた動傷
ひくなき抱くへそかこ
まりのなる當時連歌

かく云ふおとこ云わるもひもあ
るへし

是ハ二条の后のいとこの若のはり
らみく居給へるをかうのいとめ
給氏なとてひくいくそわろ
おくく本郎國經の大納をまこと
給ふいくくなくくあれとくこ
そそうそれとかくれなと云な
かくて后のたくよおそうる時と
是ハ紀者の経二条の后のいとこ
是給ふりめてそなり海と新なり二条の后
勘云高子元慶元年二月即位の日三十四

世六ツ年ここの年深夏紀ノ城ノ河ニ
兄之太郎國狭彦ノ兄之下簡ノ八雲宿ノ行
國狭ノ彦ノ兄之弟之太郎ヲ彦狭宣ノ第
女ノ一代忠仁ノ山表ヲ彦狭宣ノ第
ひとりおとこわらわ京ノ方ノ
きさきの伊勢尾張ノ海ノ波ノ
ごとくなれハを何ぞ
業平ノ古歌ノ事ハ
行平ノ前ノ業平流罪ノ時ノ事ハ當流流東國
下向ノ分ニ古注ニ委ク言喩ニ
可記之ニ業而已ニ宮家ノ奥書ニ
雖懐可思惟之勅撰ノ詞ナレバ
ゆくことすえ行くあこうきさき
うつくしもかくのごとくの
右ノ詞ノかんわる都ニ
北ノ陸奥ヘ下ル當意即妙ノ
ごとく海ノ
ごとく田舎ノ
海ノ
北ノ陸奥ノ
ひとりおとこ
とのごとく
ひとりおとこ京ノ

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』　請求記号 857-19　　ガラス使用

いひ事ぞ小水行河のくりてあれいたる
よるくるんやたもとつひろる
水行河のくりくなまいの水の雁橋(ガンケウ)をいへる
世ぞありの八月(ハツキ)に限(カギ)りてくもを水行川雁橋(ガンケウ)なるよめるこの
をへくりてをなるべし猶の歌(ウタ)
りのるれいかくこなるへし(後撰(ゴセン)十九)
のくりくよりの事に後(クダ)せ
そのこの亀(カメ)の甲のくりよりかり
つまそのこの亀(カメ)の甲(カフラ)かたつくりて
見てくわれ人のけくかつてとくいて
もつくく猫のこをもとひろれて
以和漢中の神をくおもへし

病(ヤマヒ)くをりのもも下(クダ)りくと云(イヒ)説をいの事
なまいくろくしき家物(イヘモノ)をまいくろへし
仮(カリ)に千飯(センバン)を鍋(ナベ)と事かもと猫の中途(ナカミチ)の合(アヒ)
の事を有馬王子の歌(ウタ)より考(カムガ)へ天皇のれみ
家(イヘ)もまいくふりの仮(カリ)に草(クサ)枕(マクラ)
雛(ヒナ)の巣(ス)よりの
かく衣(キヌ)さくなまいくしてまいくわ
もろくこのたひをしてかりの
さくと云(イヒ)まいくもろくく酒(サケ)
よみくいく秀句(シウク)多くて悪(アシ)うるべ
はてもと云(イヒ)ものかくよく猫(ネコ)
これと大(オホ)猫(ネコ)のりた(カリ)

人とおもく歩を出すべからず
きとなるを
ことあるをいみ人は忌服のごとくなるおとして
ほとひろうを
源に赴くことひとしきの
ふれふところと雖諧の神
祓さくしてするかの国つ
まく我いんとをも道いとくそうでそれこと
かえていたりて拙く消そくすべ
なりふり
家と一旦ようの字本をわまでも参河とるべく
後行くものごとを中ようまをいと
祓方勢冠来に

其山おもおかたくいひ名ゆ山をもそらんね
そうん神ていなるよかもしかるに伝ふ
天福本或云伝虎嘯伝云物之性好早
河海蓮ほ信用ス山云先人令 彼雖為
之心得をもてるな人徒ら有尋問人皆不知之也云愚本
動物ノ異ル

山なくさハ那のひえの山を十社と云ふ
ともたゝりの祖ノ二十もろ
おかりもの事ハ家ノ動物
洋蓮ほの信開を山云つ
山ニ云ふ此本しもおかの其
凡早之不可開之ふ
易問人皆疑不

ふりのうこそ秋のかぐまれるなり
水郷さくらを汐屋と云ひ拍板のかひこそ好草
何ノ寺蓮八ツ洗と花開をれた宝家の仏華文り
和哥の風色ゆゑもぞろひ
比叡哥道の二ノ上へ波妙の風
松ゆきくてむさの風との中よ
いとおかさなる川をそれとすみ行とみを川のや
とるもまおくだりひやまいなくもさふ
ろう郎とひへふり
伊豆相模と越く行心流渡の祈二国の江井不合
時ノ別のかもりかさ下総ひもり川さの江のうそて
江事なれた渭てふ見

ゆふ松ノ須へ大さな川と云事尤面白一葉草の
駿行の祈家母もふもかり
郎八日ノ三井ノ剃大さふ
なろへなるへしまおく松
一郎ノあけまてろくとまふ郎とりひさ
まみなも
ろりもやふの里日をふ
らんとするふみふりのひくて来ふ
もあもさふりしろふ
かさふさのれはさふ水のふ
をくも夏ふふをたりひりひふ
云ふめて我不絶といふ

みな人の侘(ワビ)しく思の隔(ヘダ)つ行(ユク)義也京にありし人
親類(シンルイ)又ありし人なとをこひし　鴫(シギ)の大さ鴨のやう
なくてはしと足と赤き鳥といふなり背(セウモン)やくり
しきは黒(クロ)腹(ハラ)は白(シロト)く鴫の様に大なる鳥といへり
鴫のせいかんなるにくいなし
京にはみえぬ鳥なれはみな人見しらぬを渡(ワタシ)守(モリ)にとひ
けれはこれなん都鳥といふをきゝて
古今　名にしおはゝいさこととはん都鳥
我思ふ人はありやなしやと
此鳥をは人は都(ミヤコ)鳥(トリ)と云り　我思(オモヒ)の名にて一入につく
おり人の都と云名をきゝて都にしおはゝ
都の事を問へし我か思ふ人はいかにもありやなしや

思ひをなす也　背門(セウモン)にむかしやたよりの中に大さな
る河ありやいふよりをみな人物侘(ワビ)しくと云わりし白
き鳥のはしと足と赤きといふ思と云ことくその
舞をうきつゝあきれけり江の川のみなと
まにさかのつれなく都鳥かと
とよみけれは舟こそりてなきにけり
舟中の傍人(バウジン)の感涙(カンルイ)をもよほしては挙(コゾル)世(ヨ)をこそりてといふごとく
船中の人皆とりて皆歌に感(カン)じてなくなり
志ることいふの義也
むかし男むさしの国まで惑(マド)ひありきけりさてその
国にある女をよはひけり父はこと人にあはせんといひ
けるを母なんあてなる人に心つけたりける父はなほ人にて

人々くゝ御ん方ゝ〳〵なるゝ
やなりひゞこのむこそ
不なんいふの郷(サト)
此女房(タヽ)のいふやうこゝろ
いひ通(カヨ)ふ事ゝ文(フミ)ひさを
業平(ナリヒラ)おとゝ
とゝまれ御(ヲン)名(ナ)の人(ヒト)よ
直人(ナヲヒト)結婚(ケツコン)のおさ〳〵
ゝゝ御ん教(フデ)ハラ
氏(ウヂ)ハ貴族(キゾク)ゝそ氏(ウヂ)と
さの人(ヒト)おゝ
おゝなりひら文(フミ)(ビン)教(ヲシヘ)

量(リヤウ)源氏紅葉賀(モミヂノガ)ゝ后(キサキ)
みゝ野のそのむれ
まゝゝそゝ
みゝの里大和(ヤマト)武蔵(ムサシ)
田面(タノモ)ゝ一向ゝ
むなり永尊(ヤウソン)自ゝ云名(ナ)
なるゝそゝゝ
ひゝ
我方ゝ
そのむれ
我方ゝとゝ
とゝゝ

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』　請求記号 857-19
ガラス使用

[illegible]
いう三ん[illegible]
となんひとの國にくも[illegible]
とゐん初位の筆法(ヒツホウ)と人の國
ぬ(カウショク)のやまとと云り是
も月捨(ヨウレヤ)わるへき[illegible]
ひとかの[illegible]
みちりひとせろ
ひとかの[illegible]
[illegible]
枯(ソウイ)遺業八[illegible]
の奇しきめ古訣(クケツ)百家の[illegible]

多一組(セン)[illegible]
なるへき[illegible]
不[illegible]
橋直轉(タヾモト)[illegible]
つたりうへのむとめ(クリ)[illegible]
[illegible]
おり[illegible]
[illegible]
[illegible]
野へゆくゆく[illegible]
めれうるを女[illegible]

くるもみちらぬ人ひ野ハ遠人のかるりとも
とも云ひく
なよ此物語の記なれハなり
ようくるる人とおくそもくる國のうち
古今
むさし野ハ行ども行ども草ばかり
ハさともなれり我もこれ
ひ奇のうたくりてひ記
くてハ女男をいこ男女共に草とし
古今無常の秋ハ
の奇といふ言ハなるよの
とくくれもとやく女を

ことを
國のうちのりれ女を具(グ)し
の縣(カイ)
昔むくなる男京なる女の
やくれいろくとかくくもかく
おくもくせく後をもせ
やまのまいそくやく称いく
の遷(シン)延(タイ)の事をいこ遅(コヒ)怠(ゲ)
とうくかさめくる心うの
しめくくりいこ國
もくく号(ガウ)するこ信濃の
の長弓(ユミ)潅波(エ)多(ザ)
くれへなたくひこ

ひさしくわたくしすまひかりくれ
ともなをいとゝとうちもうかさう
さもかくるみみの泥(ひぢ)のえんこと
ひさしくとゞめ心よりつまやこん
帝こうかさうしいさやこん
の向いうなりさなるもわれそ
もゝこさゝ
とゝをんくうんそくかさん
女のまゝおりひも泥(ひぢ)ぬゝ云
こゝをいさゝひ小路(こうぢ)もて
かくるおりやんをこゝろ
こゝろこゝろこゝ云ひ眼(まなこ)を迎さい

まゝなをかゝ所ゆやんいる
むす男みちのくおさまゝ泥(ひぢ)
こなる女京のんいうみやお
りんるんるさそのお
さ泥(ひぢ)
中くよゝ云れをくこと
なるへりるものおもち
棄(くはこ)て髪(かみこ)云拘わしかる事をたのむ
さゝ行くれてせあくん死るんとおりみてをゝ
汁そのんこゝ中くよゝ悪不死るくあい棄(くはこ)
みのなくそやゝ云棄(くはこ)みの拘
されも契(ちぎり)の深さりのるれいり合せくかく称

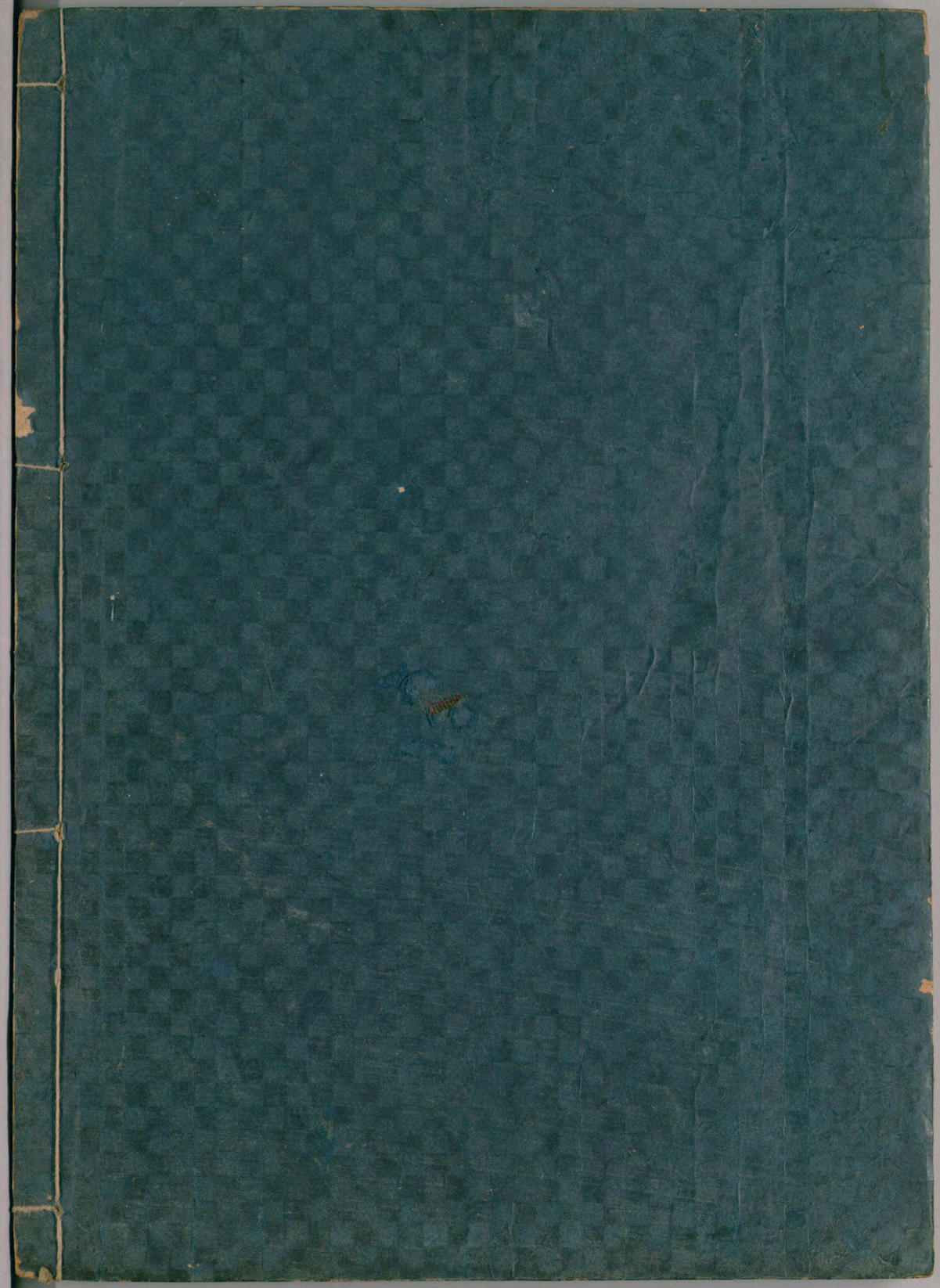
国立国会図書館　タイトル『閼疑抄 5巻』　請求記号 857-19
ガラス使用

人のふれおくもふるくへく
奇(サウ)遠(ザ)況(キヤウ)もなきやうなれ共
道をも弁(わきま)へ云(いふ)人の心(こゝろ)中(ぢう)へ
とゞまりてこの人のふれおく
事(こと)をもふるくへさりのこと
ふる三隠(かくれ)くをもふれてくんと
女(をんな)のこゝろをなぐさめくをもふるくへ
ひとをんなをふるくへいはせんへ
めくたしとおりへくへ記(しる)
をいたすもふるくへ恥(はづ)かしきおりの
さ悪(あく)字(じ)不(ふ)将(しやう)心(こゝろ)悪(あく)と云字(じ)をも
女のおりへをふるくへ多(おほ)あるを
てはいふせんとおもふ業平のまを
のよとくうの歌(うた)あるをも
ふをいふいはせんへその字(じ)を休(やす)め云(いふ)

857
19

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 857-19

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 857-19

ガラス使用